



1



2

① 昭和39年10月15日開館当時の蚕糸博物館外観

② 4条繰り諏訪式繰糸機

〈特集1〉

岡谷蚕糸博物館 開館 60周年
リニューアルオープン 10周年

for the future

これからのシルクのために



“未来への礎”

岡谷市に蚕糸博物館がある理由

岡谷蚕糸博物館は、昭和39年10月15日に開館し、今年で60周年を迎えます。また、平成26年8月1日に現在の場所に移転し、「岡谷蚕糸博物館—シルクファクトおかや」としてリニューアルオープンして10周年となります。

改めて、岡谷市の歴史に関係の深い蚕糸博物館誕生の経緯と、この記念すべき年に予定されている、さまざまなイベントを紹介します。

蚕 糸業が盛んであった岡谷市では、戦前より、市をはじめ市民のみならず、全国的にも貴重である「シルク」の歴史を後世に伝えることの必要性を感じ、蚕糸業に関する資料が散逸してしまわないように収集し、大切に保存していくことが重要だと考えていました。

そのようななか、シルク岡谷と言われた蚕糸業の最盛期を担っていた片倉工業株式会社が、1958(昭和33)年に、諏訪市の「懐古館」(現・諏訪市美術館)に保存・展示していた蚕具類・製糸機械類などの貴重な資料を岡谷市に寄贈したことをきっかけに、市民の間に蚕糸博物館建設の機運が高まりました。

市内の製糸業者が中心となり、全国の蚕糸関係者や一般市民に募金の協力働きかけたことも大きな力となり、1964(昭和39)年10月15日に全国的にも珍しい蚕糸業に特化した「市立岡谷蚕糸博物館」が開館しました。その後は、博物館としての役割を長く果たし、岡谷市の蚕糸業について、その歴史を伝えてきました。

50 年目の節目の年、平成26年には、シルクに関する研究を行っていた市内の施設を改装。その場所に移転し、民間の宮坂製糸所を併設することで、博物館の見学と同時に工場見学もできる施設に生まれ変わりました。さまざまな体験を通して蚕糸について深く学ぶことができる、全国的にも類いまれな博物館として、今日まで10年にわたり、蚕糸を広める役割を果たしています。



6



4



4



4



4



7



8



5



3

写真で振り返る60年

⑥平成26年8月1日リニューアルオープン式典

⑦宮坂製糸所での諏訪式繰糸機による繰糸

⑧エントランスの「岡谷市鳥瞰図」で学ぶ小学生

④足踏み式座繰りや揚げ返し、機織りなどによる体験学習

⑤令和元年企画展「草木染ー山崎斌・青樹・和樹 三代の軌跡ー」

③開館当時の1階展示室



小学校でのカイコ学習のようす

博物館の役割は、資料の収集保存、調査、学術的研究、企画展示、刊行物の発行、お客さまのご案内、普及活動としての講演会の開催、学習活動、岡谷近代化産業遺産群の伝承など多岐にわたります。そのなかで私たちが大切にしているのは、子どもたちへの「カイコ学習」です。お蚕さまを育てることですが、子どもたちにとってかけがえのない経験から限らない学びの世界が広がっていきます。こうした活動を通じ、郷土の人々の努力や、創意工夫をして産業を築き上げてきたことなどを学ぶことにより、郷土への想い・愛着・誇りが芽生えてくるものと思います。

〈インタビュー〉
館長に聞く！
これからの蚕糸博物館について
「常に生まれ変わる
博物館を目指して」



博物館の将来像・夢は？

岡谷蚕糸博物館
館長 高林 千幸

来館される方への想いは？

最終製品である織物の製織工程までを一貫して見られる博物館にしたいということです。蚕の飼育から繰糸、織物の製品化まで一貫して見ることができ、体験できる博物館にしたいですね。体験したことは一生忘れません。これからの活動のキーワードは「体験」だと思っています。

これからの博物館の姿として、展示内容や行事の充実を図ることはもちろんですが、人と人とのつながりが大切です。おもてなしの心でお客さまに接し、また来たい、また体験したいと思っていただけるリピーターやSNSのフォロワーを、一人でも多く増やしていくことが大切だと思います。

海外からの見学者も増えつつあります。日本のシルクを知りたかったら、まず岡谷蚕糸博物館へ、という場所にしたいですね。

セレモニーイヤーに 開催されるイベント

8/22 Thu ~ 11/10 Sun

企画展「Yumi Katsuraの世界」

日本の伝統美をシルクに託し、世界で挑戦し続ける
ユミカツラの作品の数々が岡谷に並びます。

【オープニングイベント】

ユミカツラクリエイティブチーム 藤原綾子さん、
森永幸徳さんによる展示解説

日時……8月22日(木) 午前10時～

会場……岡谷蚕糸博物館 (要申込み・要入館料)

定員……30名

申込み……8月9日(金) 午前8時30分～(先着順)

電話にてお申し込みください。

9/23 Mon

岡谷蚕糸博物館 開館60周年・ リニューアルオープン10周年記念式典

開館60周年・リニューアルオープン10周年記念事業の
特別企画として式典を開催します。記念講演会として、
岐阜県飛騨市の都竹市長をお招きして、講演していただ
きます。

「飛騨と岡谷一糸ひき工女を通じた豊かな産業交流の歴史」

講師……岐阜県飛騨市長 都竹淳也さん

日時……9月23日(月・振休) 午後1時30分～3時30分

会場……カノラホール 小ホール (申込み不要・聴講無料)

10/2 Wed

Yumi Katsura トーク&ファッションショー ～シルクの魅力・ユミカツラの世界～

日時……10月2日(水) 午後3時～6時(2時30分開場)

会場……カノラホール 大ホール (要申込み・聴講無料)

【地元高校生ステージ】諏訪実業高校服飾科

【第1部 トークショー】

「桂由美先生の心にふれて」 岡谷蚕糸博物館館長 高林千幸

「Yumi Katsura 59年のあゆみ」

ユミカツラクリエイティブチーム 藤原綾子さん、森永幸徳さん

【第2部 ユミカツラ・ファッションショー】

世界を魅了するユミカツラのドレスを、心ゆくまでお楽しみください。

※入場には入場整理券が必要です。事前にお申し込みください

【申し込み方法】往復はがきにて。定員を超えた場合は抽選。

結果は9月20日前後に発送します。

(往信面記入内容) 岡谷市郷田1-4-8 岡谷蚕糸博物館

ユミカツラ トーク&ファッションショー係

【申し込み締切】9月5日(木)必着

応募は1枚につき1名(本人のみ)。複数応募はご遠慮ください。



(往信表面)

(返信裏面)

(返信表面)

(往信裏面)

<p>3940021</p> <p>(往信)</p> <p>岡谷市郷田 1-4-8 岡谷蚕糸博物館 ユミカツラト ーク&ファッ ション ショー係</p>	<p>この面には何 も記入しない でください (入場整理券・ 結果通知を印 字します)</p>	<p>ご自分の 郵便番号 住所 氏名</p>	<p>ご自分の ①氏名 ②電話番号 ③住所</p>
--	---	------------------------------------	---------------------------------------



岡谷蚕糸博物館
シルクファクトおかや



公式サイト



Facebook



instagram

問合せ

ブランド推進室 (岡谷蚕糸博物館内)
TEL 23-3489 (サンシハク)

11/16 Sat・17 Sun

シルクサミット 2024 in 糸都岡谷

シルクサミットは、カイコ・シルクに興味を持ち、各分野で活躍している人々との意
見交換・情報交流・技術交流を進め、蚕糸技術の継承・普及、新たなシルク産業の
形成や文化の醸成に寄与することを目的としています。シルクの産地を巡り、年1回、
順番に開催していますが、本年は開館60周年・リニューアルオープン10周年を記念
して、岡谷市で10年ぶり、4回目の開催となります。

日時・内容…11月16日(土) 午前10時～ 午後1時～ 上映「シルク時空をこえて」
講演・発表

11月17日(日) 午前9時～正午 近代化産業遺産めぐり

会場……カノラホール 小ホール ほか

※詳細は、ホームページなどで随時公開



7



8



9



10



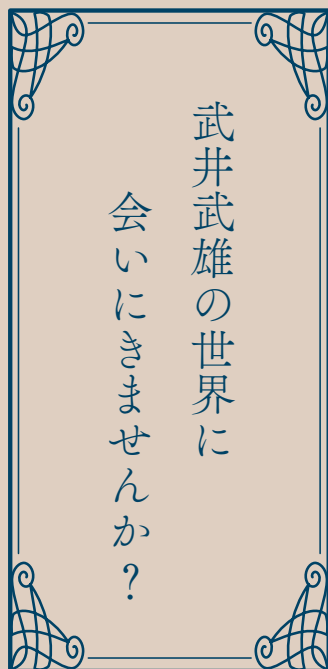
11



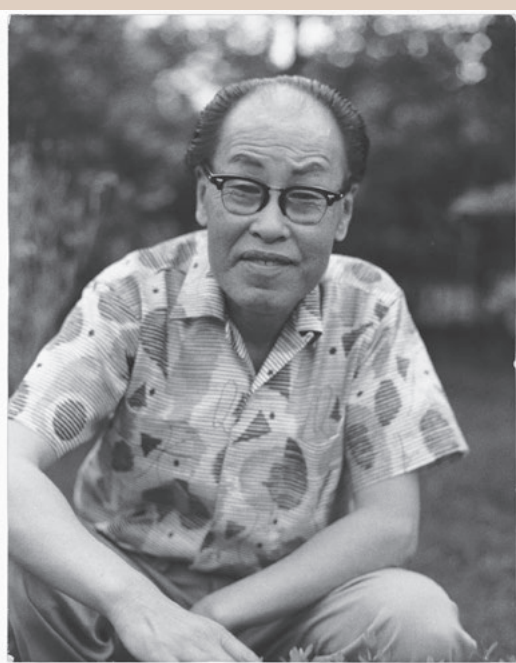
12



13



今年 は岡谷市出身の芸術家武井武雄が
生まれて130年となる年です。改めて、
懐かしい けれど あたらしい
ほっとする けれど そわそわする
知っていたようで 知らなかった
武井武雄の世界に触れてみませんか？



武井武雄



〈特集2〉 武井武雄 生誕百三十年記念



1



2



3



4



5



6

1. 空のおこう (1964年) 2. 近くの世界 空 (1950年) 3. 夢を造る工場 (1963年) 4. とけいのうた (1974年) 5. 青の魔法 (1964年) 6. おしくらまんじゅう (1967年) 7. ひとりぼっちの人魚 (1964年) 8. 鬼 (1958年) 9. 刊本作品No.84「平和白書」 (1970年) 10. かたちのおうた (1955年) 11. 五人の楽師 (1977年) 12. 上方いろはかるた絵札 (1974年) 13. ダビデの竖琴 (1966年)

武井武雄の世界



武

井武雄は1894年に平野村（現・岡谷市）で生まれました。小学校の頃にはすでに絵描きになると公言していたようです。諏訪中学校（現・諏訪清陵高校）をへて、憧れだった東京美術学校（現・東京芸術大学）西洋画科へ進学します。美校では黒田清輝、藤島武二に学び、卒業後は洋画家としての道を歩んでいました。

大正時代中期は『赤い鳥』など、質の高い子ども向け雑誌が次々と創刊されました。しかし、当時それらの雑誌に掲載されている絵は童話や童謡の単なる添え物にすぎず、また画家たちの絵も上手でしたが、片手間で、真に子どもを感動させる絵は多くありませんでした。武井も生活のために児童雑誌に絵を描いていました。このような状況に不満を抱き、子どものための絵こそ芸術を創作する覚悟で取り組みなければ、子どもの心を動かす絵は画けない、これこそ男子一生の仕事に相応しいと、童画家として生きていくことを決意します。因みに、子どもの心に触れる絵を「童画」と呼称したのも武井が最初です。

武井は1922年に創刊された、絵に重点を置いた雑誌『コ

ドモノクニ』に企画段階から関わり、創刊号の表紙や題字を手がけ、その斬新で独特な表現は多くの子どもたちを驚嘆させました。以降、生涯を通して『キNDERブック』など数多くの児童雑誌に絵を描き、日本中の子どもたちに愛される童画家となる多くの画家、漫画家、絵本作家、イラストレーターたちに多大なる影響を与えました。



自画像 1910年

童画家以外にも武井には、詩人、童話作家、版画家、造本家、デザイナーなどの顔がありました。さまざまな領域に挑戦しました。童画はもちろんですが、版画や刊本作品なども芸術性は高く、子どものみならず大人をも魅了しています。イルフ童画館では武井の作品や資料だけでなく、約7000点を収蔵しており、3か月ごとの展示替えでバラエティ豊かな武井芸術を紹介しています。生誕130年を迎えた今、改めてその輝きに出会ってみてはいかがでしょうか。



星曜日 1965年



赤ノッポ青ノッポ 1948年

代表作品紹介

星曜日(1965年)

この作品に添えられた詩で、武井は“星曜日こそ星空の最も美しい日なのだ”と記しています。思い思いに過ごす動物たちが描かれ、そんなたわいのない日々こそが幸せで美しいのだと教えてくれる、温かさにも包まれた武井のタブロー作品です。

赤ノッポ青ノッポ(1948年)

1934年に朝日新聞に連載されたのが最初で、昔話「桃太郎」の後日談として描かれた創作話です。その後、複数の大手出版社から発刊されるほどの人気で、手塚治虫も心に残る作品の一つとしてその名を挙げています。



刊本作品No.55「ラムラム王」1965年

刊本作品のセカイ

「刊本作品」とは、絵画や彫刻と同様に本を芸術の対象と捉えて、武井により創作された本形式の作品を称し、1935年から1983年に亡くなるまで139作品が生み出されました。武井は装幀、物語、印刷方法、素材など制作の全てを指揮し、作品には一つとして同じ表現様式のものはありません。その徹底したこだわりは随所に見られ、例えば『ナイルの葦』(No.108)では使用するパピルスは栽培から始め、完成まで4年半もかかりました。これらの刊本作品は、その美しさから“本の宝石”とも言われ、基本的には「親類」と呼ばれる会員だけが購入できる限定本でした。



〈コラム〉

武井武雄生誕130年によせて

イルフ童画館 館長 山岸吉郎

童画という言葉は武井武雄が1925（大正15）年に東京銀座資生堂画廊で個展を開いた時に使用したのが最初である。すなわち武井が童画家になろうと決意した大正中期には「童画」なる言葉はなく、認知もされていなかった。云わば武井は名称さえ存在しない、得^え体の知れないものを一生の仕事に選んだのである。東京美術学校卒のエリートであり、地方の旧家出身でありながら、芸術家としての姿勢はいつも冒険的、挑戦的であった。今日では武井は童画家と紹介される。いや「童画の父^あ」或いは「童画の神様」「童画の王様」等と冠されること、がしばしばである。武井は「童画」を定着させたのである。逆にそれが余りに強すぎて、武井＝童画になってしまった印象すらある。武井武雄の美術館に務める人間にとってそれが嬉しくもあり、時として



悩ましくもある。それは武井という芸術家はそれだけではないからだ。版画家、刊本作品の制作者、デザイナー、童話作家、詩人等々、様々な芸術領域に挑戦しており、またそれらの開拓者でもあった。武井は未来を先取りしていたのである。最近若い女性たち中心に多くの武井信者が誕生しているのを見ると、時代がやっと追い付きつつあるのを感じる。思えば、「イルフ」という言葉も武井の造語である。逆に読むと古いとなり、ゆえに「新しい」を意味する。芸術家としての武井は前例主義的、因襲的なものを嫌い、常に新しき、革新を求めた。まさに「イルフ」な芸術家なのである。

武井武雄 生誕130年記念 全国巡回展

武井武雄 幻想の世界へようこそ

目黒区美術館 7月6日(土)～8月25日(日)
石川県立美術館 9月7日(土)～10月6日(日)
一宮市三岸節子記念美術館
10月12日(土)～11月24日(日)

今年は、武井武雄生誕130年として、全国での巡回展やさまざまなイベントを開催します。ぜひこの機会に、市民のみなさんも武井武雄の素晴らしい作品に触れてください。



問合せ

ブランド推進室（岡谷蚕糸博物館内）
TEL 23-3489（サンシハク）
イルフ童画館
TEL 24-3319

サイクリングイベント ジャズマニア

JAZOO MANIA

武井武雄は自転車愛好家で、自転車の遠乗りイベント「JAZOO MANIA」を主宰していました。JAZOO MANIAを復活し、諏訪湖周をまわるサイクリングイベントを開催します。参加者には記念Tシャツをプレゼント。

日時…11月2日(土) 午前9時15分～
内容…イルフ童画館をスタート。

自転車で諏訪湖を一周します。

参加費…1,000円(傷害保険料込)

対象…小学校3年生以上

(小・中学生の参加には保護者が同伴)

定員…25名(先着順)

持ち物…自転車(レンタサイクル歓迎)、ヘルメット

申込み…イベント、レンタサイクルともQRコードから



詳細・申込み
レンタサイクル

武井武雄シンポジウム

～武井芸術の真髄に迫る～

武井武雄について童画、版画、刊本作品など、さまざまな面から見た武井をテーマに対談、研究発表を行います。

日時…9月15日(日) 午後1時30分～

会場…カノラホール 小ホール

(申込み不要・参加無料)

登壇者…

松本猛さん(いわさきちひろ美術館顧問)

竹迫祐子さん(いわさきちひろ美術館元副館長)

名久井直子さん(ブックデザイナー)

遠藤千恵子さん(白百合女子大学児童文化研究センター助手)

山岸吉郎(イルフ童画館館長)

河西見佳(イルフ童画館学芸員)

犬塚奈々子(イルフ童画館学芸員)

